

小ギク「常陸サマーライト」の8月旧盆出荷には電照栽培が有効

農業総合センター園芸研究所

小ギク「常陸サマーライト」は、平成29年に品種登録を出願した県育成のオリジナル品種です。8月旧盆向けの黄色品種で、葉色は濃く照葉で、外観品質に優れることが高く評価されています。

無電照栽培での開花期は、8月旧盆需要期に対してやや早いですが、電照栽培により需要期出荷が可能になります。



電照栽培で8月旧盆需要期出荷が可能になります

無電照区の開花日7月28日に対し、電照区では8月7日に開花し、高値である需要期に出荷することができます(表1)。電照区では切り花長が長くなり、切り花重が重くなる効果もあります。

また、現地試験においても、電照により需要期に開花することを確認しています(表2)。

表1 電照が「常陸サマーライト」の開花と切り花形質に及ぼす影響(平成29年所内)

試験区	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	発蕾日 (月/日)	開花日 (月/日)
電照	112	138	6/30	8/7
無電照	92	93	6/26	7/28

栽培概要：定植4月26日、摘芯5月2日。電照は蛍光灯を用い、4月26日から6月14日(22時～2時)の期間に行った。

表2 電照が「常陸サマーライト」の開花と切り花形質に及ぼす影響(平成28年現地)

試験区	試験地	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	開花日 (月/日)	栽培概要		
					定植日	摘芯日	電照期間
電照	小美玉市下吉影	104	58	8/9	4/30	5/8	5/1～6/22
	笠間市鴻巣	72	62	7/17	4/16	4/25	—
無電照	石岡市三村	86	60	7/22	4/26	5/1	—
	牛久市小坂町	86	58	7/15	4/22	5/1	—

電照は白熱電球を光源とした。

電照栽培の方法

光源は、23W 蛍光灯(電球色)または75W 白熱電球を用い、畝から1.5m高に吊るし、幅3.0～3.5mに1灯の間隔で設置します。明るさの目安は、蛍光灯では60ルクス、白熱電球では50ルクス以上とします(図)。

電照の時間帯は、夜間の22時から2時に行いますが、0時から4時では、より高い開花調節の効果が得られます。電照の期間は、開始が定植(4月下旬)もしくは摘芯時、消灯は6月中旬(15日前後)とします。

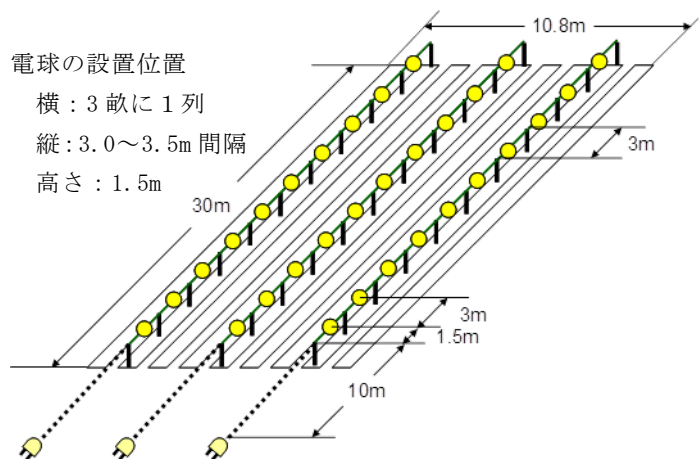


図 電照設備の設置方法(コギク電照マニュアル抜粋)

活用上の留意点

- 1) 小ギクの開花期は、冬季における親株の低温履歴や、本圃での栽培環境(気温など)に影響されるため、電照の期間は本成果を参考に各生産者・圃場毎に決定下さい。
- 2) 電照により、花蕾直下の葉の形状が若干変化しますが、商品性に問題はありません。